

オメツプについて



西 本 脩

オメツプ (OMEP) というのは、フランス語の Organisation Mondiale pour l'Education Pré-scolaire のかしら文字でできた略語で、日本語に訳すと「世界幼児教育機構」となります。

オメツプは、受胎のときから八歳ごろ

までの子どもの発達のすべての面に関心をもち、世界じゅうの教育学者・小児科医・教師・看護婦・精神医学者・心理学者・政府と地方庁の官公吏・ソーシャルワーカー・両親らによる集会の準備をしています。

そのおもな務めは、八歳以下の子どもについて、理解をいっそう深めるよう促し、人格形成期の幼児の研究から得た経験や知識を、異なる国ぐにの間で分け合うことです。

オメツプは、幼児教育の研究を進めることを目ざしています。「教育」ということばは、ここでは、誕生からおおよそ七、八歳までの子どもに及ぶ、すべての影響をさすものとして、最も広い意味で使われています。オメツプは、育児・住宅・遊び場・保育所・幼稚園・小学校への移行・子どもの病院看護・おもちゃと遊具・子どもが住む近隣地区・異なる文化や国際的な変異の影響などの問題に関係し

ています。

多くの違った職業の人びとが、オメツプの会員になっています。その中には、心理学者・教師・ソーシャルワーカーばかりでなく、建築家・行政官・作家らもはっています。というのは、オメツプは、幼児の幸福と発達に関心があるすべての人びとを、一つに集める努力をしているからです。

オメツプは、世界の子どもが幸福な幼年時代と家庭生活を送れるようにもり立て、ひいては、世界各国の間の理解をいっそう深め、世界の平和に貢献することを目ざしています。

オメツプは、いろいろな職業の人びとや団体に対して、このような目的を果たすために力を合わせる機会と見込みを作り出し、世界じゅうの違った国ぐにの違った職業の代表者らによる集会の準備をしようとしています。

オメツプは、ユニセフ(国連国際児童

緊急基金)・ユネスコ(国際教育科学文化機構)・エコソック(国連経済社会理事會)とともに協議機関の地位を占めています。ユニセフとは、子どもの発達・健康・養護について共通の関心をもち、ユネスコとは、教育や成人訓練について興味を分かち合い、エコソックとは、適切な家庭環境やよい生活条件について共通の関心をもち合っています。

オメックは一九四八年に結成され、一九六八年には、ワシントンで十二回目の世界會議を開きました。

オメックの組織は、総裁が統轄しています。今の総裁は、フランスのミアラー氏(Prof. G. Miareu)です。この下に、副総裁が五人いて、それぞれ、地域ブロックの総裁を兼ねています。世界を、南・北アメリカ、北欧、南欧、中近東・アフリカ、豪州・極東・太平洋地域の五つの地域ブロックに分け、そのどこかに属している加盟国は、それぞれオメ

ック国内委員会を組織しています。

ワシントンの第十二回世界會議の総会で、オメック憲法の改正が行なわれ、従来隔年に開かれていた世界會議が、今後三年に一回開かれることになり、三年間同じテーマで、一年めは、それぞれの加盟国が国内會議を開き、二年めは、地域ブロックごとの地域會議を催し、三年めには、それらの成果を持ち寄って世界會議を開催するという「積み重ね方式」がとられることになりました。

この決定にしたがって、わが国では、一昨年十一月に初めて、第一回オメック国内大会を玉川大学で開き、また、昨年の十一月には東京文化會館で、初めての豪州・極東・太平洋地域大会を催し、フィリピン・タイ・韓国・日本・それに客員としてカナダの代表が加わり、「遊びの教育的役割について」を主題として意見をかわしました。これらの結果を、本年夏ボンで開かれる世界會議にもって行

くことになっています。

オメックの第十三回世界會議は、「幼年期における遊びの教育的役割」というテーマのもとに、ことしの八月五日(木)から八月十一日(水)まで、ドイツ連邦共和国(西ドイツ)の首都ボンで開催されることになっています。

わが国の幼児保育界も、オメックの精神を生かし、いろいろな職業や団体の入びとが、幼児のしあわせのために力を合わせ、国際的な視野から研究を進め、発展させていきたいものです。

オメックの沿革・加盟国・日本との関係などについては、左記の拙稿を参照してください。

西本脩「幼児教育機構第十二回世界會議報告」(「幼児の教育」第六十八巻 第一号)昭和四十四年一月フレイベル館

*